

2024 年度 学校評価報告書

1. 園の教育目標

キリスト教的人間関係に基づき、乳幼児の個性を尊重し、適当な環境を与えて、心身共に健康で調和の取れた発達を助長する。

2. 2024 年度 重点的に取り組んだ目標・計画

さあ、漕ぎ出そう 奏でよう
～ありのままのわたしが輝くために～

- ・健康な心身を育む
- ・愛する心、思いやりの心を育む
- ・神様にお祈りする心を育む

3. 評価目標の達成及び取組状況

評価項目	取り組み・達成状況
教育充実のための 取り組み	・子どもの主体性を大切にする保育を実践し、一人ひとりの願いや思いを受け止め、保育者との安定した関係の中で自己を発揮できるような関りを行ってきた。 ・自然が感じられる環境下にあるため、自然への愛情や生命の不思議さや尊さに気づけるよう、山登りやお散歩を保育の中で取り入れた。初めは長時間歩くことが難しかった年少児や、歩行が安定していない子どもが数名いた乳児クラスの子ども達も、回数を重ねるごとに、歩ける距離や時間が伸びたと思われる。 ・毎月、様々な災害や不審者侵入などを想定した「避難訓練」を実施し、子ども達と保育者が危機管理を持って過ごせるよう努めた。また、消防士・警察官の方を招いて「AED」や「さすまた」「消火器の使い方」などの講習を受けた。 ・各学年、毎月の神様のお話や、神父様を招いてのお話、宗教行事、日々のお祈りを通して、神様がいつもそばにいて見守ってくださっていることを伝えてきた。 ・今年度より、満 3 歳児を受け入れたことで、年少組の子ども達もクラス内での異年齢の関わりにより成長が見られた。
保育・職員の レベル向上	・モンテッソーリ教育の研修やキンダーカウンセラーの研修などに参加できたことは良かった。その他の研修内容の共有する機会を持つことができなかったため、会議などで時間を持ちたい。 ・個々でキャリアアップ研修に参加はしているが、その他の研修受講職員に偏りがあったように思うので、様々な研修を通して職員個々がスキルアップに努めたいと思う。
保育・教育環境の 整備	・日々の生活の中で、生活行動を意識して繰り返し丁寧に行えるよう、保育士自身が見本を見せたり声をかけるなどしてきた。 ・忍耐力を養い、体力をつけるためにも園外への散歩などを積極的に取り入れていきたい。 ・年長・年中組では、自らの遊びを選択し子ども同士で遊びを広げたり、ルールのある遊びを行うなど、子ども達地自身が意欲的に遊んでいた。 ・縦割り活動や戸外遊びでは、異年齢での関りが見られ、楽しく過ごすことが

	できた。 ◆ 食育カリキュラムでは、各学年で育ちに合わせた工程でクッキングを行い、食に対する興味関心が育ったと思う。 ◆ 今年度は作品展を行わずに保育公開で作品の展示をすることで、子ども達の製作の負担を軽減すると共に、保護者の方には、その時期の成長を見ていただけた。
社会連携 奉仕事業	◆ 地域交流では、年長児がくすは縄手南校へ給食交流に参加することができた。 ◆ 縄手中学校から、職業体験や交流（生徒自作のおもちゃで遊ぶ）に来てもらった。 ◆ 商店街のイベントに参加し、地域の人たちとの交流を深めることができた。 ◆ 子どもの育ちについての共有は、小学校とも連携をとり、ケース会議を開催している。 ◆ 卒園児の小学校の参観に参加し、卒園児の様子を担当の先生からお聞きすることができた。保護者有志の方と企画を重ね、地域の方・卒園児を招いての夏祭りを開催することができた。食品類・ゲーム等、様々な出店を行い、普段給食を提供いただいている職員の方にもお手伝いいただいた。出店箇所が園庭だけで行ったため、予想以上のご来場により混雑が見られたので、来年度に向けて出店数・開催時間・入場制限などの見直しが必要である。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保護者参加の行事や普段の保育内容においても、コロナ禍以前に近い内容になってきたように思います。愛する心や思いやりの心は、縦割り活動や預かり保育での異年齢との関りや、聖劇前のアドベント週間でそれぞれの子どもに成長が見られたと思います。子ども達のありのままの姿を受け入れ、個々に寄り添った保育をこれからも続けていき、昨今問題となっている不適切保育についても職員同士で話し合い、日々の保育をお互いに振り返り話し合える時間をこれからも続けていと思います。また、職員それぞれの危機管理を徹底し、災害に備えた訓練を続けていき、子ども達が安心して過ごせる安全な環境を保ち、保護者の皆さまに安心していただけるように取り組みます。

5. 学校評価委員 評価結果

- ◆ アンケート結果通り、教職員の役員や保護者に対応は適切で非常に交換が持てる。様々な個々の相談などにおいても、親身な対応が実施できている。また、クラスが楽しく意欲的に取り組んでいるうえで成長も感じられていることは、高評価に値する。
- ◆ 一方、比較的酷評であった「礼儀やマナー」についても、全教職員が積極的な挨拶が行われており、大きな問題はないと感じる。子ども達から積極的な挨拶ができるよう指導を継続することで、改善が期待できる。
- ◆ 山登りを取り入れていることで、体力面での向上も図られている。今後、体操・球技・マラソンなどを実施することで、更なる運動向上が見込まれる。総合的に見て、年々保育の質が進歩していると思う。
- ◆ 子ども達の個性を尊重しつつ、子ども同士の人間関係にも注意を向けて、保育していただいている。現代の教育として、自己肯定感の向上に重きを置いている印象があるが、それだけでは他への思いやりや団体生活における協調性が養われないと考えます。その中で褒めるだけの優しさではなく、注意することの優しさも必要であると思いますが、当該園では、そのような面においても工夫されていると思います。

- ◆ 厳しい評価であった先生方の「礼儀やマナー」「挨拶」は、毎日暑い日、寒い日、雨の日や風のきつい日一年通してどんな日でも門で保護者や近隣の通勤の方々、幼稚園前を通られる方にもご挨拶されていることはとても素晴らしいことで、その姿は子ども達にもいい影響を与えてくださっていると感じています。また、園長先生にエントランス前で毎朝、一人ひとりぎゅっとしてもらってから園での一日が始まる事は、まだ幼い子ども達には分からなくとも、ここは安心して過ごせる場所、自分はここにいてもいいという自己肯定感を伸ばしていただけるのではないかと思います。
- ◆ 園での子ども達の保育は、とても充実していると感じます。子どもが様々な体験を通じて、学ぶことが多く、知識が増えるだけでなく、人と関わる事で協調性を身につけることができたり、思いやりの気持ちも養われていると感じます。先生は、保護者の悩みに対して親身に対応してくださり、子どもの家での様子と園での様子を共有できることで、親としてできる役割に気づけることがあります。担任だけでなく、園全体で子どもを見ていただけることに保護者として安心感があり、また子どもの様子から園で、一人ひとり大切に思っていただけいている事がわかります。
- ◆ ほかの園と比べても大小様々なイベントごとがたくさんあり、それらのイベントを通して家だけでは出来ないたくさんの経験をさせてもらえ、子どもも楽しんでいる様子があり、その話をしてくれる姿を見て嬉しくなります。給食では家では食べないものも食べられるようになっており、驚きと感謝です。課外活動に参加するようになり、異年齢との関りも増えて、園生活を楽しんでいるように思います。
- ◆ 運動会を見せていただき、印象深かったのは、先生方の働きの様子でした。子どもたちに接する様子は子ども達とともにあって、その満面の笑顔からは、子ども達への愛情と信頼、喜びがあふれていて、感動しました。
- ◆ 畑の仕事から、園児のみなさんの様子をうかがっていますが、元気な様子や楽しそうな笑顔が多いと思います。幼稚園の地域の方々も畑に関心を持っていただいているようで、野菜づくりのアドバイスを含め、畑に声をかけていただくことが多いです。
- ◆ 評価目標達成及び取り組み状況に関して、「各学年、毎月の神様のお話や、神父様をお招きしてのお話」「宗教行事」「日々のお祈り」は神様を身近に感じ、見守ってくださる事を伝えるための素晴らしい取り組みです。カトリック的人間観に教育され、心に明確な信仰心が芽生えた子どもたちが、色々な技能や他人への優しい奉仕精神を身につけてくれれば本当に素晴らしいことだと考えます。
- ◆ 安全対策は保護者の皆さんにとって大変大きな関心事となります。火災や震災などの災害、また不審者対策はやはり日々の訓練が重要となります。AEDを使用した肺蘇生訓練や「さすまた」「消火器の使い方」などの消防署、警察署の協力を得ての訓練も避難訓練も引き続き継続していただきたい。
- ◆ 子どもの主体性を大切にする保育を実践し、一人ひとりの願いや思いを受け止め、保育者との安定した関係の中で自己を発揮できるような環境を作り、自然への愛情や生命の不思議さや尊さに気づけるように山登りやお散歩を取り入れたことは、良い取り組みだと思う。
- ◆ 保護者や地域との連携・情報発信でも、給食交流や縄手中学校生徒との交流、さらには地域の人たちとの交流も深められとっても有意義な時間を共有できたのは素晴らしいと思う。